

平成26年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>(教育課程・学習指導・授業改善) 知的障害高等部単独校、地域性を生かした教育課程を構築する。</p>	<p>①1年においては、生徒数増加に伴う昨年度の教育内容表を検証し見直す。2年においては、具体的な内容を含めた教育内容表を作成する。3年においては、教育内容表の概要を作成する。</p> <p>②生徒数増に対応した外部の専門家を活用する等、校外のリソースも生かした社会生活・職業生活に実践的に生かせる指導内容を実践する。</p>	<p>①各学年の教育内容表を作成したか。</p> <p>②社会生活や職業生活に関する外部の専門的な視点を取り入れた実践をしたか。</p>	<p>①1学年は、昨年度の教育内容表や年間指導計画をたたき台として、生徒の実態と照らし合わせてその内容を修正した。 2学年は、前年度の実績がないので、年度当初に作成した年間指導計画をたたき台として、生徒の実態を照らし合わせて教育内容をその都度見定め内容表を完成させた。</p> <p>②県の事業を活用して、ビルメンテナンス協会の方から清掃に関する指導法について、生徒も教員も共に、学ぶ機会が設定できた。生徒への指導を見直し、改善することができた。</p>	<p>①年間指導計画と教育内容表の両者の意義を言語化し、その効果的な活用について職員間で共有する。</p> <p>②研修した内容が作業学習の取り組みとして定着していくとよい。県の事業だけではなく、他の作業学習でも外部の専門家等を活用できるとよい。</p>	<p>(保護者) ○就業支援コースでは、就業に向けた意識を養っている。 ○丁寧に教えてもらっている。</p> <p>(学校評議員) ○学校はあらゆる所を見る所(心、感情の分化、認識の育ち)である。 ○自立支援コースが見えにくい。 ○学んだことが応用できるとよい。経験の積み重ねが必要。 ○自立活動の時間の扱いを今後どう考えていくか。 ○到達度が見えにくい中どういう手応えを感じているか</p>	<p>(学校評価) ・開校2年目を迎え、教育内容の精選が行われつつある。 ・就業支援コースについては、特徴ある取り組みができた。 ・自立活動について工夫し始めている。</p> <p>(改善方策等) ・次年度は3年間を見渡した年間指導計画と教育内容表を作成する。 ・職員間で共有すべきことを学部運営要項に盛り込む。 ・本校の基盤である自立支援コースの特徴について言語化をめざす。 ・今年度の研修の成果を記録に残し、活用していく。今後も外部機関の方から指導について学ぶ機会を設けていく。</p>
<p>(生徒指導・支援) (1)自己を客観的に捉え、かつ前向きに課題解決に向かうことができる教育支援体制を整備する。</p> <p>(2)指導の充実に向けて、校内で共通理解を図る取り組みを進める。</p>	<p>(1)①面談を通して、生徒自らが目標を具体的に理解し、目標を設定し、振り返る時間を設定する。</p> <p>②一つひとつの授業の中に、成功体験を積み上げ、意欲を高める学習内容を設定、実践する。</p> <p>(2)アセスメントを目標設定・指導内容に結びつけるポイントを明らかにする等、アセスメントを活用する中で、本校のアセスメントの全体像を構想し、個別の支援計画とアセスメント期間の取組と評価を含みこんだ、個別教育計画システムを整理する。</p>	<p>(1)①生徒自らの目標を導き出し、指導・支援をしたか。</p> <p>②生徒が成功体験を積み上げ、自己効力感を育成し、意欲を高める指導・支援をしたか。</p> <p>(2)本校におけるアセスメントの全体像を構想し、個別教育計画システムの全体計画を作成したか。</p>	<p>(1)①個人面談を年4回計画した。学習目標設定に本人の意思を可能な範囲で反映させたり、取り組みを生徒自身が振り返る機会を設けた。</p> <p>②本人の意思を反映した具体的な目標を個別教育計画の目標に盛り込むことができた。生徒自ら目標を設定して取り組む「チャレンジタイム」や「選択」の授業を行った。</p> <p>(2)本校が取り組む個別教育計画の基本的な考え方と大まかな手順を示した手引書の作成に取り掛り、実践しながら、手引書を修正した。</p>	<p>(1)①生徒自身の課題解決のために、具体的な達成度がわかるような目標設定に導くのが難しかった。十分な面談時間の確保が必要。 ②生徒の希望にこたえる学習グループのラインナップを検討する。</p> <p>(2)新転任者にレクチャーをする必要あり。 担任以外の職員も参画する校内の支援体制を構築する必要あり。 卒業後の移行を見据えたシステムを構築する必要あり。</p>	<p>(学校評議員) ○きめ細かい面談を通じた聞き取りにより自己決定を促す手法は賛成。これまでの成長過程、保護者や地域との連携を観点に加えて。</p>	<p>(学校評価) ・こまめな報告・連絡・相談をしながら情報共有をし、チーム支援を心がけた。 ・生徒自ら目標をもって学習し、漢字検定や数学検定等にのぞむことができた。 ・面談や教育相談の機会を生かして、生徒との対話を重視した。 ・アセスメントを生かした個別教育計画策定の大まかな流れが整理された。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
（生徒指導・支援） (3)人権を大切に、個人への配慮がある集団指導を実践する。	(3)①SSEを軸としたライフスキル獲得のプログラム（よこひなSSE）の実践と研究を実施する。 ②自己および他者を大切にすることを含んだ日常的な指導を実践し、「いじめ」に至る言動を減少させる。	(3)①SSEを軸としたライフスキル獲得のプログラム（よこひなSSE）の実践と研究を実施したか。 ②自己および他者を大切にすることを含んだ日常的な指導を実践し、「いじめ」に至る言動を減少させる。	(3)①就業支援コースのコミュニケーションの授業でよこひなSSEの実践をし、授業の計画や記録等を蓄積した。また、学年ごとに授業研究を行った。その中で次年度以降に取り組むべき課題が明らかになった。次年度まとめることを見据えて次年度計画を立てたい。 ②年度初めには、学年ごとに「学校生活で大切なこと」について指導した。学期末には、クラスごとに、指導を行った。教員に対しては、生徒との「かかわり」に関して考える研修を行った。いじめアンケートは12月に実施し、面談を希望している生徒に対しては、3学期初めに教育相談担当が実施した。	(3)①10のライフスキルのアセスメントになにを活用するか、また、ターゲットスキルの客観的な決定方法、自立支援コースでのSSEの取り組み等の課題が明らかになった。 ②指導の実践事例は、今後も蓄積が必要である。「特別指導」の有効な方法、生徒への提示、意識付けなど課題が残る。	(保護者) ○自立支援コースこそコミュニケーションの指導は必要ではないか。 (学校関係者) ○SSEは「究極の避難訓練」であり、「いざという時どうしたらよいか」を身につけるためのもの。限定的なシミュレーションではあるが、「学校の中の共通言語」として、その場に応じた行動がとれるようになると良い。 ○「自己肯定感」は「他者肯定感」がないと生まれにくいのが原則。地域を含めた中で、セルフコントロール力、セルフエスティームを養ってほしい。	(改善方策等) ・個々の生徒の目標設定や振り返りのために、個人面談の時間を計画的に確保する。 ・生徒が自発的・自主的に活動する場としての部活動の実施を計画する。 ・よこひなSSEの取り組みをまとめる中で、2つのコースで活用できるものを示していく。 ・「特別指導」については、名称も含めて引き続き検討していく。
＜キャリア教育・進路指導＞ 生徒が卒業後の生活を具体的に想定でき、希望を抱ける進路活動を展開する。	①社会集団の中で役割を果たすスキルを身につけるための指導・支援を実践する。 ②担任、進路・作業担当が協働し、近隣企業・関係施設と連携する等の地域のリソースを活かした教育活動を広げる。 ③卒業後の生活をイメージしやすくするために、定期的な相談及び、ニーズに応じた適宜・随時の進路相談、教育相談を実践する。	①就業支援：企業などの社会集団の中で役割を果たすスキルを身につけるための指導・支援をしたか。自立支援：身近な社会集団の中で役割を果たすスキルを身につけるための指導支援をしたか。 ②担任と進路・作業担当が連携し、地域のリソースを生かした実践をしたか。 ③本人と保護者に対して、分かりやすく進路情報を提供したか。	①進路先の見学を実施した。1年生は希望をもとに1日職場体験を実施した。2年生は「社会生活」「職業」などの授業を中心に「実習」に向けた準備や具体的な卒業後の生活に繋がる指導ができた。 ②作業学習では、約26箇所の地域資源の活用結びついた。（給食のパン他）夏季休業中の職員全体での開拓全体で200社程度の連絡を入れ、今年度は44社の企業から実習等可能との回答を得ることができた。 ③進路説明会を各学年1回ずつ、進路面談を高等部1年生で1回、高等部2年生で2回実施した。教育相談では、保健室前に相談室3を新設し、相談しやすい環境を整えた。4～1月までの9か月に368件の教育相談を実施した。教員には、進路及び教育相談の情報共有する機会を研修で設けた。	①職場体験では生徒数増に対応するための職場数の確保と職員の引率体制の組み方が難しい。 ②今年度の活動をベースにし、さらに地域資源の活用や職場開拓を拡げていく。また、生徒のニーズに沿うことのできるよう進めていく。 ③進路面談時間を1件30分で設定したが、時間内に終わらないことも多かった。分かりやすい進路情報の提供を進めていくのであれば、もう少し長い面談時間の設定が必要である。	(保護者) ○情報が少ない。 ○社会に出て困らないようにお願いしたい。 ○働くことについて、丁寧に教えてもらっている。 (学校関係者) ○学校には、挨拶・身だしなみといった社会人としてのマナーや社会性・就業することへの意識を高める指導を期待したい。 ○進路選択等におけるミスマッチを防止をするためにも、作業学習の基本方針がぶれないようにしてほしい。 ○キャリア教育は必要条件ではあるが、十分条件ではない。それをやっても十分ということではなく、授業のワクワクドキドキ感が学校には大切だと思う。 ○キャリア教育は単なる就労支援ではなく、ライフキャリア論の上にあるもので、キャリアのために自分らしく生きるのではない。	(学校評価) ・進路見学会は、2日間の日程で生徒を分けて実施した。 ・進路面談時間を設定したが、時間内で終わらないことも多かった。 ・教育相談では、担任以外の教員に相談結果をフィードバックしているが十分に周知できていない (改善方策等) ・生徒増に合わせ、職場体験先の確保と職員の引率体制を検討する。 ・3学年が揃う来年度に向け、作業学習場所や実習場所等を拡充する。 ・進路面談の時間を見直す。 ・教育相談において、学年・学部で共有すべき生徒に関する情報がある場合、学年会や学部会で報告する。また、専門職の派遣を活用し、指導に役立つ情報を発信していく。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
〈地域のセンター的機能〉 インクルーシブな教育を目指した地域との連携	①各地区の自立支援協議会との協働と、事業所等との情報交換を通し、校内外の児童生徒等に対する支援体制を広げる。 ②支援教育の推進のため、地域の小学校・中学校等へのコンサルテーション・教育相談を拡充する。 ③地域の学校の教員を対象とした特別支援学校の説明会を実施する。 ④交流や地域行事への参加を通し、本校の教育活動の理解を広げる。	①各地区の自立支援協議会との協働と、事業所等との情報交換を行い、支援連携体制を強化できたか。 ②地域の小学校・中学校等へのコンサルテーション・教育相談を拡充したか。 ③地域の学校の教員のニーズの把握し、近隣県立特別支援学校と連携し、特別支援学校の理解推進を目指した説明会を実施したか。 ④地域に対して、本校の教育活動の理解を広げることができたか。	①大和市、横浜市瀬谷区・泉区・戸塚区、藤沢市の行政や事業所等と情報交換を行うとともに各地区のイベントに参加した。お知らせについては、本校保護者、本校生徒、教員らに掲示や配付等をして提供した。 ②電話相談、巡回相談を実施した。各地区に、教育相談のチラシ配付等を行った。本校主催の研修会や講座への参加を促した。 ③特別支援学校進学を想定した中学校進路指導のニーズを大まかにとらえられた。 ④学校だよりを通じ地域、関係機関に本校の支援や、インクルーシブな支援体制づくりに向けた活動について発信した。また、記事作成に生徒が関わることになった、サマーフェスティバルは共催、運営業務参加した。ステージでは如月太鼓とともに演奏を披露した。地域向けに公開講座を2回実施	①保護者が掲示を見る機会が少ないので、情報の伝え方を工夫する。 ②チラシと会議でのお知らせでは、小学校・中学校等の様子が見えない。 ③中学校のニーズを踏まえた、本校の事業の具現化が必要。 ④3学年の生徒がそろったところでサマーフェスティバルへの参加形態をどうするか2年間の実績を踏まえ、次年度以降の障害理解講座の検討が必要。	(学校関係者) ○生徒も地域も楽しみ喜べる交流があるとよい。 ○小学校廃校のあと、自治会で検討会を重ねて、特別支援学校開設に向けた準備に携わってきた地域である。地域で手助けできることがあれば、声をかけてほしい。 ○中学校や高等学校の教員と交流を図るとよい。テーマを設けるとよいのでは。 ○登下校の見守りやボランティア募集にも協力したい。	(学校評価) ・各地区の会議に参加し、情報収集及び情報共有することができた。 ・校内相談の件数が増えた。教育相談週間等の成果と考えられる。 ・校外への巡回相談が少しずつ軌道に乗ってきた。 ・中学校のニーズ調査を行うことで、説明会の内容をよりよく精選した。 ・「学校便り」の構成を検討し、より地域へ発信できるように工夫した。 ・サマーフェスティバルに参加し、地域との交流を深めた。 ・地域向けの公開講座を実施し、障害の理解促進を図った。 (改善方策等) ・この地域をどのようにしたいか、地域とともに考えていく。 ・地域情報を収集し、学年や学校の通信等も活用し情報を伝える ・近隣の中学校等を中心に積極的な訪問相談を実施、連携していく。 ・公開講座については、生徒・保護者・地域が一体となり活動できる講座として今後も企画・運営を進めていく ・支援教育を前面に出し、「地域と学校をつなぐ〜学びあい講座〜」を進めていく。
〈学校運営・学校管理〉 (1) 生徒が健康・安全・安心して生活できる学校教育環境を整備する。	(1) ①教育環境の充実に向けた課題整理、調整等を計画的に適切に行う。 ②限られた時間の中でもできる研究・研修システムを検討する。 ③養護教諭、栄養教諭と連携し、学校安全を確保する体制を充実させるとともに食育指導、健康安全指導等を展開する。	(1) ①教育環境の充実に向けた課題整理、調整等を計画的に適切に行えたか。 ②限られた時間の中で、効率的・効果的な研究・研修ができたか。 ③学校安全を確保する体制の充実とともに食育指導、健康安全指導等が展開できたか	(1) ①教室備品の整備、特別教室や作業学習の授業環境整備を進めた。校内倉庫を整理し防災備蓄物品の充実につとめた。 ②全体を見据えた効率のいい研修計画を立てた。研究では、テーマを絞り効果的な研究計画とした。 ③アレルギーのある生徒について、学校生活全般の対応についてまとめた個別のシートを作成し活用した。	(1) ①生徒が全学年そろうにあたり、教材の充実や共有などの整備、安全な教育環境づくりを進めること。図書室の整備。 ②次年度の報告に向けて、効率的に次年度への課題を共有する必要がある。 ③アナフィラキシーショックなどへ緊急時対応について校内の安全マニュアルが適切か。個別のシートを使って引き継ぎを適切に行い校外での実習等の活動にも適用できるようにする。	(学校関係者) ○いろいろと模索しながら、良い学校になっていってほしい。 ○配付物の品が良い。 ○学校だよりのホームページ掲載は、世界への情報発信になる。 ○学校はアウトプットが弱い面がある。広報に限らず、生徒の教育活動も外へ出していく。 ○地域の見守りの体制整備が必要。	(学校評価) ・教育環境の整備に努めた。 ・研修の全体計画を作成し、効率よく実施することができた。 ・アレルギー対策について検討し、マニュアルを作成した。 ・防災教育に力を入れた「防災のレポートトリ」により、さまざまな条件のもと、避難訓練を実施した。 ・地域の防災拠点として、地域と連携できるように、地域の夜間訓練に教員が参加した。 ・校外学習等がスムーズに企画・進行できるようにチェックリストを作成した。 ・不祥事防止に向けて、アンケートやグループワークなど、職場全体で取り組んだ。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>〈学校運営・学校管理〉</p> <p>(2) 生徒、保護者、地域から信頼される学校運営を行う</p>	<p>(2) ①本校の新たな職員体制を踏まえ、地域と連携した防災体制を検証する。</p> <p>②各業務の適格な実施を把握するためのチェックリストの作成し、同時にヒヤリハットを生かし、事故を防ぐ、業務体制を随時検証する。</p> <p>③職員の自己啓発活動を中心とした、教育公務員としての意識向上活動を推進する。</p>	<p>(2) ①地域防災拠点との連携を意識した防災体制づくりに取り組めたか。</p> <p>②各業務の的確な実施を把握するためのチェックリストの作成と活用ができたか。</p> <p>③教育公務員としての意識の向上を図ることができたか。</p>	<p>(2) ①生徒が主体的に参加していくことをねらいに防災教育を学年ごと年2回実施した。職員は講義や HUG など防災研修を通じ地域との連携について考える機会を持った。県立学校唯一の地域防災拠点として、訓練に本校職員も参加し拠点の活動を知る機会を設けた。</p> <p>②校外活動等の業務一覧と校外活動等における安全チェックリストを作成した。さらに定着に向けて、実務に適切なファイリングシステムを試行した。定期の施設設備点検に加え、予測される災害に向け情報収集と事前準備を進めた。学校内だけでなく登下校の安全を確保するための見守り体制などを適宜実施した。不祥事防止研修会でセキュリティをテーマに実施した。情報セキュリティ対策強化月間として情報管理について点検作業を実施した。</p> <p>③予防に向けたチェックリストを作成し、各学期末に全職員が実施する。結果は職員間で共有し、意識向上に向けて研修を実施した。</p>	<p>(2) ①地域防災拠点のマニュアルは改訂されたが、拠点開設時の本校の関わり方について検討が必要。</p> <p>②作成したチェックリストが効果的か検証する必要あり。今後も情報管理について適切な状況を維持したい。</p> <p>③不祥事防止に向けた取組の効果をとらえることと、取組の定着に向けた方策の検討が必要。</p>	<p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 物品の整備は、教育課程の実現と、生徒の学習が安全に実施できるよう年間計画に基づき優先順位を考え調達を進める。 今年度の研修報告会を生かして次年度の研究が、効率よく行えるようにしていく。また、学校全体の研究、研修を絞り、必要な研修に時間を有効利用できるようにする。 アレルギーへの対応が必要な生徒の情報収集など通年で取り組み、対応が共通理解できるようこの流れを浸透させる、年度当初の生徒情報連絡会等で周知する 地域防災拠点のマニュアルに関連付け、拠点開設時の本校の職員体制や連携のとり方について本校側のマニュアルの検討を行う。 チェックリストを活用した業務遂行が定着するための方策を打つ。 研修の機会を利用しながら年間通じて情報セキュリティの確認を行い、必要な情報提供を行う。 	